

今日の力

2012年7月2日～7月8日

翻訳 斉藤雅子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月2日(月)

私たちは皆同じではありません

聖書朗読 マルコ 4:10～20

彼らは確かに見るには見るがわからず、

マルコ 4:12

種が播かれる土のたとえ話は、土と同様、物事に対する私たちの反応も様々であることを教えてくれます。クリスチャンの立場から見れば、全ての人々が等しくイエス様のみことばを受け入れることができると思いたいところですが、イエス様が生きておられた時代にそうであったように、現代でも人々はそのみことばを理想的な形で受け入れることができるとはかぎりません。

それまでに体験してきたことやいろいろな状況のため、ある人は他の人よりもイエス様の教えを受け入れる素地ができています。

何年も前にある友人が、ある定期刊行物の編集者から「子どもにとって理想的な家庭の作り方」というテーマで記事を書いてほしいという依頼を受けたことを話してくれました。その時私はその友人に、「子どもにとって理想的な家庭の作り方」というテーマを、「どうしたら子どもたちと一緒に理想的な家庭が作れるか」というテーマに変えて記事を書いても良いか編集者に尋ねることを薦めました。

もう成人している子どもたちの親として、またクリスチャンの教えを基にした心理学者として、私は子どもがたとえ話の中の良い土のように育ちやすい子育ての方法を目にしてきました。それには、親がまず良い土の模範となることです。家庭の中のルールは公平なものとし、首尾一貫して実行します。ねだられたからといって適切でない願いを聞き入れることはしません。自分(親)が言ったことは守りましょう。家族会議には子どもたちも参加させてください。ただお小遣いをあげるのではなく、家事の手伝いに応じてお金を渡しましょう。祈りと聖書を中心とした家庭を築いてください。家族全体で教会生活を楽しみましょう。そうすれば、神はきっとあなたに祝福を与えてくださいます！

聖歌 195

祈り 愛する主よ。子どもたちを良い土の子どもたちとして育てられるように親たちを助けてください。貧しい土の者が良い土に変われるようにあなたの助けを得られるように導いてください。

イエス様の御名により。アーメン。

カール・ミッチェル
アーカンソー州 サーシー

7月3日(火)

からの種ほど小さく

聖書朗読 マルコ 4:30~34

私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。 コリント 4:7

私の子どもたちが小さかった頃、子どもたちは神について次のような歌詞の歌を歌っていました。「私の神様はとっても大きくて、とっても強くて、なんでもできる。神様にできないことはない！」なんと素敵なお歌詞でしょう。しかしながら、神はいつも壮大にその御力を発揮されるわけではありません。神がしばしばこの世の諸事に関与される時、それはひっそりと巧妙に、ほとんど人に気づかれることなく行われるのです。

ある時、イエス様が神の国を聴衆に説明していた際に、イエス様は神の国を、人間が地面に植えることができる種の中で最も小さいからし種にたとえられました。からし種が人々に親しまれていない植物であったなら、人々がこの話で感心することもなかったかもしれませんが、聖書には『生長すると、どんな野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。』（マタイ 13:32）と記されています。

マタイ 19:26 に『それは人にはできないことです。しかし、神にはどのようなことでもできます』と記されている中には、私たちの想像もできない姿に御国を形成するために地上のつまらないものや人を用いることも含まれています。その種を播くことにわずかでも関わることを許されているなんて、私たちはどれだけ神に愛されているのでしょうか？ 私たち一人ひとりが貢献できるのはわずかな部分に思えますが、それは問題ではないのです。何といても私たちの神はとっても大きくて、とっても強くて、なんでもできるのですから。神におできにならないことはありません！

聖歌 203

祈り 御父様。あなたがその宝を土の器の中に入れてしたのはその測り知れない力があなたのものであることを示すためであったと気づくことができるように助けてください。それが大きなものであれ、小さなものであれ、私は自分の国ではなく、あなたの御国に種を播きたいと思います。
イエス様の御名により。アーメン。

ケイ・バーナム・エヴァンズ
テキサス州 ラバック

7月4日(水)

「たら、れば」の条件付きではなく、絶対的な信仰

聖書朗読 マルコ 4:35~41

私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。 ローマ 8:35

あなたは仕事を失った経験がありますか？ 仕事だけに限らず 家を失ったり、財産を失ったり、愛する者を失った、健康を損なったという経験もあるかもしれません。たくさんの方が、今あげた全てではないにしても、この中の一つほどは過去数年の間に失った経験をしているかもしれません。

困窮や人生における苦難は抗し難いものです。イエス様の弟子たちは、ガリラヤ湖の大嵐でその命を失ってしまうのではないかとこの恐怖に襲われました。彼らはパニックに陥り、彼らが乗っていた小舟から水を掃き出そうと懸命でした。そして、嵐が収まらないため、眠られているイエス様を起こすことにしました。マルコの書には、弟子たちには「彼らが死にそうでもイエス様が何とも思っておられない」ように見えていたと記されています。

イエス様は目を覚まされ、『黙れ 静まれ』と言われたただけでした。これにより、風は止み、静けさがもたらされました。私には、弟子たちがあごを外さんばかりに驚く姿が目につかぶようです。弟子たちの中には経験豊かな漁師もおり、たくさん嵐にも遭遇していたはずですが、誰もこんな嵐にぱたりと止む嵐は今まで経験していなかったでしょうから！ マルコは弟子たちがそれぞれ『風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう』と口にしたと記しています。

そしてイエス様は『どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことか』と尋ねたのでした。あなたは人生の嵐に遭遇した時に、恐怖に取り残されたままでしょうか？ それとも、何が起ころうともイエス様が共にいてくださることを信じますか？ 何もかもイエス様と私たちを引き離すことはできないのです。

讚美歌 291

祈り 愛する御在天の御父様。私たちの人生においてあなた様が示してくださっている配慮と恵みに感謝します。あなたに頼り、日々あなたのことを知ることができるように導いてください。
イエス様の御名のうちにお祈りします。アーメン。

キャロライン・イエーツ
ノースカロライナ州 レイリー

7月5日(木)

皮を食 べ る こ と

聖書朗読 マルコ 7:1~13

文字は殺し、御霊は生かすからです。

コリント 3:6

昨年の夏、私は礼拝の進め方に関する些細なことのために分裂の危機にさらされているアフリカの諸教会を訪れました。このような問題は聖書的ではなく、人間の意見の相違により引き起こされるものです。分かりやすいたとえを用いて私はこう尋ねました「マンゴーの皮だけを食べて、中の実を捨ててしまう者などいるでしょうか?」と。

宗教的な伝統は、長らく守られてきた慣習と高く評価されている聖書の解釈を引き継ぐことから生まれます。人がいとも簡単に、自分たちの人間的な解釈を、明確な聖書のみことばの基本的な教えと混同してしまうのはなんとも恐ろしいことです。パリサイ人は形式にこだわるあまり、自分たちの預言者を拒絶しました。私たちは、実のない皮だけを糧に信仰生活を続けていくことができますでしょうか? 私たちがパリサイ人を模範とするなら 私たちはキリストが与えられた意味を見失い、イエス様の教えの内にある豊かさを捨てて、いつまでも変わることができず霊的に空っぽのまま、私たちのお気に入りの伝統に従属することがキリストの代わりに私たちの「義」となってしまうでしょう。

御霊のない文字は私たちを殺してしまうのです。

讚美歌 第二篇 80

祈り 愛する主よ。文字に従うだけでなく、御霊にも従うことができるように私たちを守ってください。私たちがあなたの真実と自分たちの伝統を取り変えてしまうことがないように導いてください。

イエス様の御名により。アーメン。

G・B・シェルバーン3世

テキサス州 サウスヒューストン

7月6日(金)

イエス様はここにおられます!

聖書朗読 マルコ 7:24~37

隠れていることはできなかった。

マルコ 7:24

イエス様が訪ねられた先々で、その存在を秘密にしておくことが不可能であったことに気づきましたか? イエス様御自身が秘密にされようとした時でさえ、やはり不可能でした。群衆に追われていたイエス様は度々、その恵みと癒しを受けた者に「私に会ったことは誰にも言わないように」と指示を与えていました。今日の聖書朗読箇所では、マルコはイエス様が『家にはいられたとき、だれにも知られたくないと思われたが、隠れていることはできなかった』ことを記しています。

あなたの周りの中で、イエス様との霊的な関係がその人の言動全てから伺える人物を考えてみてください。イエス様の存在は隠せていないはずで、イエス様の弟子たちは、「イエス様と共にいた者たちであった」ためにその存在をまぎれもなく知られることになったのです。

私たちの態度や、家庭や職場(または遊びの場面)での私たちの他者との関係を通して、弟子としての私たちの人生はイエス様の存在を示すものでなければなりません。『私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。』(使徒17:28)。

キリストがわたしの内に生きているとの

驚くべき思いにとらわれるとき、

わたしの心はいつかわたしもキリストのようになりたい

という願いで満たされる。

讚美歌 121

祈り 御在天の御父様。御子の御臨在の内に生き、愛と思いやりとをもって世にイエス様を示すことができるように助けてください。

イエス様の尊い御名を通して。アーメン。

ブルース・エヴァンス

テキサス州 アビリン

7月7日(土)

いのちの主を称えましょう！

聖書朗読 マルコ 16:1~20

私たちはあなたを待ち望みます。あなたがたがこれらすべてをなさるからです。
エレミヤ書 14:22

神は大地のほこりに息を吹き込んで、神御自身の御姿に似せて人類を創造されました。なんと素晴らしいことでしょう。しかし、暗闇が待ち伏せしており、狡猾なへびが人類にいつわりを語りかけて、私たちの不服従と痛みが生まれました。そのような中でも神が私たちを見捨てることはありませんでした。神は私たちの祖先に優しく寄り添い、不妊の胎からその後地上の全ての家族に祝福を与える光となるような一国を作り出しました。しかし、そのような輝かしい民の内にも罪はその専制的な支配を見せるのでした。

とはいえ、罪が思いのままにはびこったのも神御自身がその民の一人として、言い換えれば私たちの一人として、お生まれになるまででした。不可視であった神が、肉体を伴い目に見える姿となって、信仰溢れる乙女から赤子として生まれたのです。それは、神が、人間の限界と自らの不足を満たすことができない窮屈さと醜悪さの中に身を置くことでした。しかし、私たちはこのことにより、自らの暗闇の内にイエス様という偉大な光を見いだすことができるようになったのです。イエス様の内に、恥じる者は赦され、孤独な者は愛され、傷つく者は癒され、敵対する自然までもが「静まりなさい」という言葉におとなしくなりました。そして、イエス様は私たちへの偉大な愛のため、私たちの乱暴な手にかかった時、そのいのちを投げ出し、死の暗闇を受け入れたのでした。しかし、その後、殺されたいけにえの羊は光といのちの主として永遠に死からよみがえられたのです。

私たちが受けたこの福音だけが、私たちが唯一抱く、確かな希望なのです。何世紀もの間続けられた人間的な努力や鍛錬だけでは、この世の罪、病い、死や恐れというものを取り除くことはできません。私たちは、釘痕のついた手と空(から)の墓にしか見いだすことができない希望を別の場所に見いだそうとする度、落胆することになるのです。イエス様の教会である私たちがイエス様に対する信仰という真の希望にのみ堅くつながっていることができますように。

聖歌 179

祈り 確かな希望である福音に感謝します。イエス様の御名により。アーメン。
ディビッド・パウンズ
テキサス州 ラバック

7月8日(日)

賛美の歌

聖書朗読 ルカ 1:46~55

詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。
エペソ 5:19~20

男の子を産むことになると告げられた時、マリヤは何を思ったことでしょうか。彼女が感じたのは、喜びだったのでしょうか？ それとも、心の痛み、恐れ、それとも懐疑の念だったのでしょうか？ ここにあげた全ての感情プラス、他にも思うところがあつたことでしょうか。しかし、最終的にマリヤは子どもを授けてくださった主を称えています。マリヤは自分の身に起こったことを恐れ多いこととしてへりくだり、賛美と感謝の歌を捧げたのです。マリヤが捧げた歌は、本当の信仰と賛美に基づいたものでした。

幼い子どもたちが讃美歌を歌う時、子どもたちはその心のたけを歌に込めます。マリヤがエリサベツに主の母になることを告げた時も、きっと彼女は心のたけを込めて話をしたのではないかと思います。

マリヤの例に倣って、私たちが心に歌を抱こうではありませんか。『まことに、われらの神にほめ歌を歌うのは良い。まことに楽しく、賛美は麗しい。』(詩編 147:1)。ヤコブは『喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。』(ヤコブ 5:13)と私たちを鼓舞しています。なんとも子どもらしいではありませんか。

子どもたちが振り付きで「幸せなら手を叩こう、足を鳴らそう」と歌うのを見る時、私たちは思わず微笑み、一緒に歌いたいと思います。神が私たちのためにしてくださったことを知る者は皆、思わず賛美の歌を口にしてしまうのです。

讃美歌 第二篇 103

祈り 愛する主よ。私たちのためにしてくださったことを覚え、喜びの叫びと感謝の心であなたの御前に参ります。

イエス様の御名の内に。アーメン。

ゲイネル・トマス

ニューメキシコ州 ポーテールズ